

全国がん罹患数・率の推計と提供

味木 和喜子* 津熊 秀明 大島 明

1. 全国がん罹患数・率の推計

厚生省がん研究助成金「地域がん登録」研究班では、研究班参加登録のうち、登録精度が一定の基準を満たす登録の資料を用いて、全国がん罹患数・率の推計を継続実施してきた。平成11年(1999年)度は、1994-96年の3年間の平均値として、1995年の全国値を主要部位(27部位)について推計した。

1) 精度の基準

平成11年度から、登録精度の基準としてDCN(罹患者中死亡情報で初めて把握されたもの)の割合を取り入れ、DCO(罹患者中死亡情報のみのもの)の割合<25%あるいはDCNの割合<30%、かつI/D比(罹患者数と死亡数との比)1.5の2条件を用いた。

2) データ収集方法

個人同定指標を除く腫瘍単位のデータ(腫瘍データ)によるデータ収集の実現可能性を平成10年度に検討した結果、データ形式を従来の集計値データ方式から腫瘍データに、可能な登録から切り替えていくこととした。腫瘍データを収集することにより、集計値データでは実施困難であった論理検査を導入することが可能となり、データの質的精度が向上した。平成12年度は、全参加登録が腫瘍データによるデータ提出を予定している。

3) 成績

山形、千葉(モデル地区)、神奈川(モデ

ル地区)、新潟、福井、大阪、広島市、佐賀および長崎の9登録が精度の基準を満たした。これら9登録における精度指標の平均値は、DCO割合16.9%、I/D比1.73であった。全国における1995年のがん罹患数は男26.4万人、女19.5万人、合計45.9万人となり、前年より1.9万人増加した。年齢調整罹患率(人口10万対、1985年日本人モデル人口を標準)は男372.7、女225.7で、前年に比して男で6.9、女で1.8増加した。女では乳房(39.8)が胃(37.9)より高く、第1位となった。

2. WEBによるデータ提供

1) 提供方法

本研究班が1975年より毎年推計している全国がん罹患数・率の活用を促進するために、磁気媒体によるデータ提供を平成10年度より開始した。主要27部位について、部位、性、診断年別の年齢階級別罹患数・率、および年齢調整罹患率を、Microsoft EXCEL97用、CSV形式および固定長の3種類のファイル形式で提供している。詳細は、<http://www.iph.pref.osaka.jp/omc/ocr/research/zenkokuti/index.html>を参照のこと。

2) 利用状況

がん疫学研究者に限らず、医学研究機関、臨床医などからの幅広い利用がある。

*厚生省がん研究助成金「地域がん登録」研究班

〒537-8511 大阪市東成区中道1-3-3 大阪府立成人病センター内

Tel: 06-6972-1181 Fax: 06-6978-2821

1975-93 年値は計 57 件、1975-94 年値は 92 件の利用があり、利用件数が増加した。

3. 平成 12 年度の研究計画

例年の 1996 年値推計に合わせ、1990-94 年値の再推計を予定している。また、生存率計測の標準方式を決定し、全国の生存率を推計するための生存率協同調査を、1993 年診断患者を対象に実施している。

【厚生省がん研究助成金「地域がん登録」研究班 参加登録（1999 年度、敬称略）】

宮城（久道 茂）、山形（松田 徹）、千葉（村田 紀）、神奈川（岡本 直幸）、新潟（小越 和栄）、福井（藤田 学）、愛知（井上 真奈美）、滋賀（塩 榮夫）、大阪（大島 明）、兵庫（石田 輝子）、鳥取（陶山 昭彦、岸本 拓治）、広島市（馬淵 清彦）、佐賀（森 満）、長崎（早田 みどり）、および沖縄（下地 実夫）の計 15 登録。また、死亡データの提供に関して、愛知県がんセンター（黒石 哲生）の参加を得た。